

令和5年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
39	川崎市立 枳形 中学校	大津 裕一

学校教育目標	今年度の重点目標
<p>新しい時代を創造するための教養を身につけさせ、心身ともに健全で調和のとれた、人間性豊かな生徒を育成する。</p> <p>1. 学力を高め、自ら考え正しい判断ができる人(知)</p> <p>2. 美しい豊かな心を持ち、思いやりがあり、助け合える人(情)</p> <p>3. 責任を重んじ、実行力のある人(意)</p> <p>4. 体力を高め、健康で自分を大切にすることする人(体)</p>	<p>1.<学力の向上>確かな学力を身に付ける教育の推進</p> <p>・生徒の「興味関心を高める授業」「わかる授業」など、魅力ある授業を実践し、生徒一人ひとりが確かな学力を身につけ、それを活用する能力を高める授業の研究に努める。</p> <p>2.<社会性の育成>心の教育の推進</p> <p>・一人ひとりの生徒と教職員との信頼関係を築き、生徒と共に明るく、生き生きとした学校をつくる。</p> <p>3.<責任ある行動の育成・教育環境整備>特別活動の活性化及び健康・安全教育の推進</p> <p>・主体的な活動を通して集団生活の向上を目指すとともに、すべての生徒が心身ともに健康で、安心して学習できる教育環境整備を進める。</p> <p>4.<開かれた学校づくりの推進>家庭・地域との連携の推進</p> <p>・積極的な情報発信に努める。・小中高連携教育の推進を図る。</p>

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策	
1	<p><学力の向上>確かな学力を身に付ける教育の推進について</p> <p>・生徒の学習意欲の向上</p> <p>・基礎・基本事項の定着</p> <p>・評価についての研究</p>	<p>○教師の授業力の向上を図るとともに、生徒の基礎・基本事項の確実な定着をはかる</p> <p>・人の意見を聞く、自ら進んで発表するなど授業に向かう姿勢を確認しながら言語活動の充実した授業展開を図る。</p> <p>・GIGA端末、TVなどICTを利用し、視覚に訴えることで生徒の興味関心を高め、工夫された授業を行う。</p> <p>・評価・評定に関する研修を進め、それを意識した教材研究を行う。授業と評価の一体化を意識し、妥当性と信頼性のある評価を目指す。</p> <p>・週ごとの時間割を作成し(自習をなくす)授業時間の確保を図る。</p> <p>・教科ごとの学習相談日を設定し、生徒の学習についての不安などに助言を与える機会を設ける。</p>	<p>○毎時間話を聴き、メモを取り、調べて記入する習慣をつけた。</p> <p>○少人数(4人)のグループを作り、教え合いながら課題に取り組む時間を増やした。</p> <p>○生徒の実態に応じた学習内容を検討しながら指導できた。</p> <p>○多くの教員がこれまで行ってきたPCと大型TVやデジタル教科書等を利用して授業に加えて、グループワークを活用し、さらに生徒の興味をひく授業を行った。</p> <p>○本時の目標や単元のねらいを明確にした上で授業に取組めた。</p> <p>○朝活の時間に読書会・グループワーク活用(GIGA活)の時間を定期的に設けることができた。今年度授業の入れ替えを行うことで、自習時間を無くすることができた。</p> <p>○小テストで成果を得やすくなることで生徒の学習動機につながった。基本を積み重ねることで「学びのチャンス」が増えた。</p> <p>○「総合的な学習の時間」の研究を通して「考え」「行動」が力がついた。</p> <p>また、「主体的、対話的で深い学び」について、検証できた。</p> <p>●調べ学習がコアベシになっており、思考力が低下しているという危機がある。</p> <p>●学習を苦手とする生徒への対応について(入り込みや別室学習などを実施しているが)学習内容(教員のローテーションを含めて)をもっと少く考えたい。</p> <p>●3観点の評価が本来あるべき理想の形とずれていると感じている。再度評価の仕方について見直ししたい。学習相談日を特定できなかった。</p> <p>●保健体育科に關わって、空調などの設備(量や消止めなど)が整わない部分があり、改善を要すると思ふ。</p>	<p>・時間割の中に組み込まれている教科部会で定期的に授業内容や評価について話ができる環境を作る(一部の教科では実施している)ことが大切である。</p> <p>・いじめについての認識を生徒、教職員が再度見直していただくことが大事である。</p> <p>・基礎・基本の定着が不十分な生徒や学年に対する関心のある生徒への支援を支援教育コーディネーターが学年との連携を図りながら組織的に検討し、取り出し授業等の具体案を図る。一斉授業の中で呼び合い(教え合い)などの工夫をすることも大事である。</p> <p>・普段の授業で教科についての質問などは受け取ることができたが、教科担任による学習相談の日をしっかりと設定できなかったため、来年度はその機会を作りたい。</p> <p>・若く経験の浅い教員に対し、学年の教員が実践の中で助言するOJT体制をつくる。</p> <p>・説明責任のつく評価資料の整理を行うとともに、教員は日頃から互いの授業を見合い、授業力の向上につながる同僚性を意識する。実践の中で研鑽していく。</p> <p>・3観点の主旨と主体的に学習に取り組む態度の評価に至る学力を全教職員で共通に理解するよう、研修を進める。</p> <p>・教科間で(教科横断的に)、何のためにそれを学ぶのか、身に付けさせた力は何かのといったことを共有できるとよい。</p>
2	<p><社会性の育成>心の教育の推進について</p> <p>・キャリア在り方生き方教育の推進</p> <p>・特別支援教育の充実</p> <p>・命・心の教育の推進</p>	<p>○道徳やその他の授業などで、機会を毎に自らの命の大切さについて生徒が考える機会を設けた。</p> <p>○2年生ではマインドネスの協力による命の授業を、3年生は外部機関の方をお招きしての薬物乱用防止講演を実施した。1年生はKDDIの方をお招きしての「情報モビリティ講演会」を実施した。全校生徒に向けても多摩署の方にお越しいただき、講演をしていただいた。社会福祉協議会からDVDをお借りして視聴するとCSNSに關わる犯罪や活用の際の留意点を確認できた。今年度でネットによる誹謗中傷などの被害についての研修を行った。パラインディアの講演会は生徒の心に響いた。</p> <p>○生田地区社会福祉協議会の方々の主催で「中学生が語る会」を開催し、生田、南生田中学校、本校の3校の生徒で地域の活性化についての話し合いができた。</p> <p>○進路学習が中心ではあるが、生徒及び保護者への説明も丁寧に取り組めた。</p> <p>○生田地区と登戸地区の民生委員児童委員の方々と有志生徒で共同募金(生田駅、登戸駅にて)を行うことができた。</p> <p>○「総合的な学習の時間」におけるエネキ環境教育については、オリエンテーション講演をはじめ、多くの企業をお招きし、体験授業を行っていた中で生徒が自分ごととして地球環境について考えることができた。それをまとめ、1～3年の縦割りグループで発表する活動もできた。その活動を通して生徒の意見発露力を養い、温かい人間関係づくりも進めることができた。異学年の交流があり、他学年の行動を見て、お互いに学習し合っている姿があつてよかった。</p> <p>○支援教育コーディネーターやSCによる研修を行うとともに、本校の実態を全員が共有し、教育的ニーズのある生徒の支援について学ぶことができた。</p> <p>●体験学習を完全に復習させることができなかった。教師が準備して与える体験になっている。生徒の要求に応じた対応・計画が必要である。</p> <p>●取り出しの授業回数が少なくなつてしまった。</p> <p>●生徒指導が後進の形になってしまつてしまつた。</p>	<p>・各種行事の意義を再確認し、伸ばしていきたい能力を明確にしていく。</p> <p>・生徒に自信と達成感が持てる活動として、生徒を主体とした取り組みを多くし、助言についても生徒が自信を持てるような言葉を使う。</p> <p>・普段から心無い言葉や行動に敏感に反応することが大切である。また、休み時間などで生徒とふれ合い、寄り添う形で話を聴くことが大切になり、校外において生徒が自らボランティアの募金活動に参加できるような支援(一人ひとりのボランティア)とボランティア地域での募金活動など)を継続して行っていく。</p> <p>・教職員が常に生徒に気づかせ、考えさせ、行動させるイメージを大切にし、教育活動における機会を生かすようにする。</p> <p>・週一度行われる主任会を継続して行い、生徒の状態を把握し、情報を共有しながら生徒に寄り添う指導を行っていく。</p> <p>・ケース会議として、学年主任と支援教育コーディネーター、担任が密に連携を図り、時期を合わせた会議の取組を行う。</p> <p>・親を出へ入り込みなどについても教職員が本音となって行うことが大切である。</p> <p>・教育相談アンケートを基に担任とだけではなく、他の相談できる教職員との教育相談を実施することで、生徒の気持ちに寄り添った生徒理解ができていくのを継続する。</p> <p>・職業体験を2年生を中心に計画する。</p> <p>・年度当初の生徒理解及び、特別支援教育についての研修は継続すべき。</p>	
3	<p><責任ある行動の育成・教育環境整備></p> <p>特別活動の活性化及び健康・安全教育の推進</p> <p>・生徒の主体的な活動の推進</p> <p>・教育環境整備の推進</p> <p>・健康教育、安全教育の推進</p>	<p>○主体的な活動を通して集団生活の向上を目指すとともに、すべての生徒が健康で、安心して学習できる教育環境整備を進める</p> <p>・委員会活動や代表者が集う生徒評議会において、他人の意見をしっかりと聴き、自分の意見を言うよう導く。</p> <p>・清掃活動、美化活動、掲示物作成などを通して、明るい環境作りを進める。</p> <p>・健康教育、防災・避難訓練を通して防災・安全教育を進める。</p>	<p>○各種委員会をはじめ、評議会など生徒主体で行う活動が多く、生徒の成長につながっている。</p> <p>○リーダーだけでなく、他の生徒も巻き込んで行事に取り組むことができた。</p> <p>○防災・避難訓練において、生徒は主体的に危険を避け、自分の命を守る術を学ぶことができた。また、非常食の購入や備蓄品の整理もできた。</p> <p>○自分の体調管理について行うことや、感染症(さね)など意識付けを行うことで、生徒の安全は守られた。</p> <p>●廊下、ホールへの机等の長期間出しっぱなしの禁止やストップの使用などについて教職員全体で再確認したい。教職員の防災意識を高める。</p>	<p>・感染症対策としてのマスク着用により、適切な場所でもマスクを外すのを嫌がる生徒が多いが、強要することなく自然に外せるような指導を行っていく。</p> <p>・引き続き、教職員の防災研修を行い、震災や水害時の対応(避難場所や避難所になった時の連絡方法など)を知るだけでなく、不審者対応(構内・校内外への入り込みなど)についても教職員の意識を高める。また、校舎内外の設備等の安全(点検)についても業務職員として定期的に実施する。</p> <p>・委員会によっては生徒の活動工夫が必要なものもある(保健委員の昼の放逐以外の活動など)、現状に加え必要な活動を生徒に考えさせることが大事。</p>
4	<p><開かれた学校づくりの推進></p> <p>家庭・地域との連携の推進</p> <p>・家庭・地域と一体化した教育活動</p> <p>・積極的な情報発信</p> <p>・小・中・高連携教育の推進</p>	<p>○家庭・地域と一体化した教育活動を進める</p> <p>・地域行事(地域パトロール、盆踊り・祭礼パトロール等)に積極的に参加する。</p> <p>・地域行事への生徒の参加を促す。</p> <p>・地域教育協議会の行事に積極的に参加する。</p> <p>・学校だより、各種通信やホームページを通じて学校情報を積極的に発信する</p> <p>・小・中・高連携教育を推進する</p>	<p>○部活動においても生田東高校との連携がなされている。</p> <p>○新型コロナウイルスの移行により、地域の行事(盆踊り、餅つき、祭礼等)が復活したが、無断の範囲で教職員の巡回、参加、協力があった。</p> <p>○学校だより、学年だよりは定期的に発行することができ、内容も充実している。保護者・地域の方からも毎回来信しているという声を聞いた。</p> <p>○校長室とり製の手紙を発行し、生徒の横や校長の考えなどを発信できた。保護者からも好評をいただいた。校門横に掲示板を設置、立止ま理解していただけるよう飾り付けを工夫し、地域の方への情報発信を進めることができた。</p> <p>○ホームページへの掲載内容や更新の早さが保護者や地域の方に好評だった。</p> <p>○小学校との交流参観は中学校の「総合的な学習の時間」、小学校の各教科の授業参観ができて、その後の話し合いも活発にできた。6年生の体験入会では、小学生からの質問をすももらい、それに中学生が答える形をとった。高校との連携についても授業参観や研究発表会への参加交流を実施することができた。</p>	<p>・引き続き学校だより、学年だより、校長室だよりを定期的に発行する。</p> <p>・学校ホームページの機会を捉えた更新と内容の工夫を図る。また、ホームページの担当を学年ごとに置くことで、複数人でホームページの作成ができるようになる。</p> <p>・避難所運営会議の内容を教職員と共有し、合同防災訓練への協力を促す。</p> <p>・異校種交流について、管理職及び担当職員が密に連絡を取り合い、各校の行事を考えたがパランス良く、さらに、小中高における育いたい生徒像をお互いに理解しつうて計画していく。</p> <p>・令和5年度から学校運営協議会を立上げ、コミュニケーションとしての機能を活用して地域や保護者の方々の声を聞きながら学校運営に取り組んでいく。</p> <p>・盆踊りや祭礼の復活で職員が巡回しながら地域の方と話をする機会が増えることで地域行事への協力体制を意識づけられることができた。来年度も続けていきたい。</p> <p>・避難所運営会議は実施できた。毎多の意見が出て話があるが、能登半島地震での教訓を参考にガイドラインの一部見直しも必要である。</p>
5	<p>○働き方・仕事の進め方改革に関する取組の推進</p>	<p>○勤務時間管理の徹底と健康管理を意識した働き方を進める</p> <p>・学年、分掌等において、教職員の負担が偏らないように配置、役割等を考える。</p> <p>・効率的な働き方を促し、休めるときは休むことを推奨する。</p> <p>・教育課程の見直しと行事の精選を行い、一人一人の負担の軽減を図る。</p> <p>・限られた時間で最大限の教育効果を発揮するために、心身ともに健全な状態を保つよう努める。</p>	<p>○部活動においても「日」を年間予定に組み込むことで、教員が各自の仕事の予定を計画しやすく、効率的に仕事を進めることができた。</p> <p>●機会ある毎に勤務時間を意識する(長時間勤務に就くという仕事は、しない、休めるときは休むなど)を指示した。その結果、時間外在校時間の総数は減少した。しかし、未だ特定の教員が長時間勤務を行っており、全体的な改善には、至っていない。</p>	<p>・学年や分掌において、組織的に仕事に取り組み体制を整え、一人一人の負担を軽減することで、時間外在校時間を減らすよう努める。</p> <p>・学校閉庁日を利用して休暇等の取得を推奨を継続する。</p> <p>・各教職員が働き方・仕事の進め方についての意識を高める。</p>

学校関係者の評価	今年度の学校運営のまとめ・次年度へ向けて
<p>・クラス、グループ(縦割りブロック)ごとの活動がまとまっていた(「総合的な学習の時間」の授業、あるいは13年生を送る会の練習)を参観した後の感想。</p> <p>・餅つき大会に参加した生徒の態度が素直で良かった。来年も、協力をお願いしたい。</p> <p>・2年生がたくましくなっている。1年生の掲示物がよい。心が育っていると感じる。</p> <p>・「総合的な学習の時間」の研究推進もあり、生徒のアウトプット力が高くてよい。</p> <p>・地域から見ると生徒の活動が見えない。公園の清掃など行っているが、普段の中学生の声が聞こえるようになること。</p> <p>・部活動だけでなく、各種委員会の育成、具体的な活動の推進をお願いしたい。</p> <p>・生徒が「相談しやすい雰囲気」大事にされていると感じる」という設問の回答で、「そう思わない」生徒が数名もいることは、真摯に受け止め、意識していかねばならないと思う。</p>	<p>育てたい生徒像について「気づき、考え、行動する生徒」を掲げ、全教職員がそのことを意識して教育活動に臨むことができた。また、多くの教員が「主体的対話的で深い学び」を意識した上でGIGA端末を活用した授業等に取り組んだ。しかし、教員がレベルを敷くことが多く、生徒は積極的に実践しているが、掘り下げた考え方は弱く、ではないかとも思われる。教員側から目標設定についての指導をしっかりと行うとともに、目標実現のための具体的な行動について考えさせる時間を設ける必要がある。また、生徒によって、大人への成長を一步ずつ進められている生徒とそうでない生徒との差が出てきているように感じる。全教職員が協力して底上げを図りたい。働き方・仕事の進め方については、学校規模に対してやることが多いと感じている職員が多く、行事や会議の精選(不要なものを当然廃止)を行うとともに学年や分掌の仕事内容(検討したい)。そのうえで、大事な授業や生徒理解の充実を図ることが必要である。</p> <p>次年度も同様に「自ら気づき、考え、正しい判断で行動する」生徒の育成を重点テーマとし、各教科においてもそのテーマに基づいた目標を立て、教育活動に臨む体制をつくる。そして、コミュニケーションとしての機能を活かし、学校運営協議会委員の皆様、地域、保護者の皆様と協力して活気ある教育活動に取り組んでいきたい。また、2年間におよぶ「総合的な学習の時間」の研究推進で培った生徒に「気づかせ、考えさせ、行動させる」指導を全教科で継続していきたい。さらに、今年度と同様に「粘り強さ」「調整力」「共感力」の大切さを教職員及び生徒に意識させ、指導が一つとなく課題に取り組む学校を目指す。</p>